

学校は、今……

小規模校の明日をみんなの課題にしていただくために



昭和63年2月

京都市教育委員会
京都市小学校長会

学校は、今……

京都の小学校——その伝統と歴史的役割

本市都心部の多くの学校は、明治の初めの激動の中で、将来的京都の発展を人材の育成に賭けた市民の献身と熱意によって創設されました。この全国にさきがけた小学校の歴史と伝統は、何よりも教育を重んじる各学区の皆さまのうちに、いまも脈々と受け継がれています。そして、学校は地域社会の大切な拠点としても愛され、多くのご支援、ご協力をいただいております。

しかし、ご承知のように、人口のドーナツ化現象がすすむとともに、とくに、都心部では児童数が大幅に減少しております。

岐路に立つ都心部の小学校——小規模校の教育問題をめぐって

私も教育委員会では、こうした児童数の少なくなった小規模校について、従来から、論議もあり、検討をすすめてまいりました。この経過もふまえ、今回、上京区、中京区、下京区の小学校を中心に小規模校の教育問題をまとめてみました。

これをみると、小規模校には有利な点もありますが、教育上重視できない、さまざまな問題点のあることもはつきりしました。

小規模校の教育——その光と影

幸いにも本市には、地域ぐるみで教育問題に取り組んでこられた伝統と進取の精神が受け継がれております。
いまこそ、その叡智を結集され、将来的な展望に立って新たな発想をお持ちいただき時期にあろうかと考えます。
この冊子を参考とされ、21世紀を担う子供たちの健全な成長を願う教育的見地から、地域ぐるみで学校のこれからの方をお考へただくようお願い申しあげます。

目次

1| 学校は、今……

2| ヘエー、お母さんの頃は、40人をこえるクラスが——
小学校の小規模化、クラスの少人数化は、ますます進む傾向にあります。

6| あんなにいねいに教えてもらえて——
教室にみる
小規模校の光と影①

10| とんだところで、三角ベースの復活だネ——
運動会や学芸会にみる
小規模校の光と影②

14| 明日は、林間学習でキャンプファイア——
小規模校の問題点を補う
さまざまな工夫

18| ヤクンは、今日とうとうMクンとケンカをして——
子供たちは、集団とのかかわりから
もっとも大切なことを学びます。

22| ぎおん祭の宵やまの日、トオルクンが——
京都の地域社会には、他に類を見ない
伝統と強い絆が息づいています。21世紀に向かって……

26| やっぱり、PTAなどでもいちどこの問題を——
小規模校問題について、
皆さま方のご意見、ご提言をお寄せください。



京都の小学校の歴史

番組小学校の創設

明治維新後、都が東京へ移る」ととなつ、京都の町は、深刻な危機を迎えた。

京都の町衆は、京都の両陣は人ついで「あると割て、早くも明治2年に町の区分であった番組を単位として、48校の小学校を創設しました。

この番組小学校こそが、わが国の近代的学校教育制度のさきがけとなつたのです。どこにそれは、はじめから庶民一般を対象に構思されたものでした。

「学制」の発布
明治20年に「学制」が公布され、全国的に学校建設が始まつたその年、福井義吉は、「京都学校の記」に次のよう�述べています。

「京都の学校は明治2年より草を開きしものにて、……小学校となる者64所あり。市中を64区内に分けて学校の区分となせしは、彼の西洋にて所謂ペールチヘーリックトならん。」
このように、番組という独特の

学区制度を発足させた京都は、この「学制」の趣旨に合わせて、番組をそのまま新学区としていた。

国民学校令の施行
昭和16年4月からは、「小学校」の名称が「国民学校」と改められるとともに、京都特有の「学区」も廃止され、学区財産（小学校の土地・建物等）は、京都府へ移管されました。

戦後の学校制度の改革
昭和22年4月からは、6・3・3・4の新しい学校制度となり、明治22年創立の小学校の内12校が中学校になりました。

学区内に支えられてきた小学校創設からの今まで、京都の小学校は、学区内の日々の協力を得て優れた教育環境を維持してきました。子供たちを想い、教育環境の充実に向けた学区民挙げての協力、支援は、京都の教育を支える大きな力となっていました。

「エー、お母さんの頃は、
40人をこえるクラスが、
いくつもあつたって、ほんと?」

小学校3年生のYクンのおじろぎももつともて、
Yクンの通つている学校では3年生が18人。

もちろんクラスはひとつです。

小学校へ通う子供をおもちの保護者は別にして、
都心の小学校で、わずか18人のクラスがあることに、
おどろかれる方もいらしゃるでしょう。

「え、うよ、たくさんのお子供がいたから、
中にはいたずらっ子もいたけど

とても仲の良い友だちも多かつたのよ。」

と答えるながら、お母さんは、

Yクンのちよと複雑な表情が気になりました。

時とともに進んできた

ドーナツ化現象の影響をうけて、

今後もふえづける小規模校の教育上の問題点を、

Yクンの日頃の生活をとおしてみていくことにしましょう。



小学校の小規模化、クラスの少人数化はますます進む傾向にあります。

減りづける子供たち

京都市では、ピークであった昭和33年度には、154,815人の児童が市立小学校へ通っていました。それが昭和62年現在では、市街地周辺部の学校によっては児童数が増えているところもありますが、全市的に103,831人に減り、この減少傾向は今後さらに続くものと予想されます。

特に、こうした減少傾向が顕著な都心部の上京区、中京区、下京区についてみれば、昭和33年度には57,388人の児童がいましたが、昭和62年では、約四分の一の14,556人に減ってきております。（グラフ①参照）

Yクンのお母さんが小学校に通っていた昭和37年頃を例にとりますと、1学年40人をこえるクラスがいくつありました。

小規模校、少人数校

小規模校、少人数校

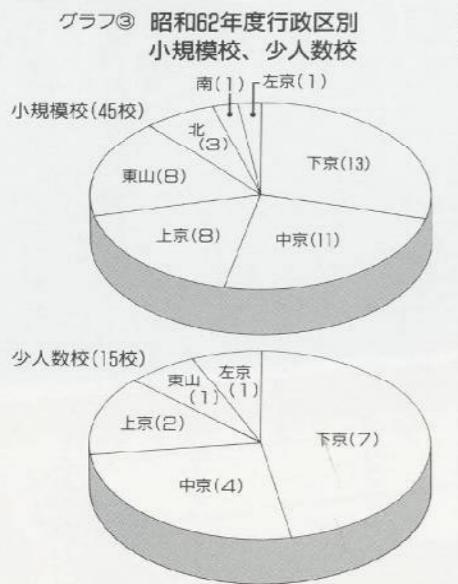
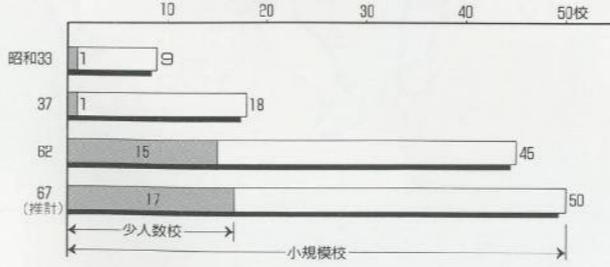
よい点も、悪い点もある

小規模校だからこそできる教育上の利点もあります。しかしまた、小規模校ではどうしても達成しにくい教育上の大切な目標もあるのです。教育目標を効果的に達成するために必要な条件が備わっていることが必要で、その条件が不十分な中で教育が行われることは、子供たちにとってひいては明日の社会にとって問題だといわねばなりません。

この冊子の目的も、そうした問題を皆まとめて考えていくことにあります。

おける小学校の実態を、学校規模という観点から見ておこうとにしましょう。

グラフ② 京都市の小規模校、少人数校の推移(山間部の学校は除く)



表① 昭和62年度小学校の児童数と学級数

上京区

学校名	児童数	学級数
春日	135	6 (2)
成田	143	6
西津	181	6 (1)
聚楽園	168	6
中立	193	8
待賢川	247	8
京極	280	10
正親町	311	12 (1)
乾燥室	314	12 (1)
室水	379	12
出仁和	466	12
室町	505	14
出仁和	587	22 (6)
仁和	735	20 (1)

中京区

学校名	児童数	学級数
立誠	91	6 (2)
立彰	94	6 (2)
立徳	116	6 (2)
本能	146	6
明倫	167	6 (1)
龍池	170	7 (1)
生祥	183	7 (1)
乾	187	6
畠有	196	6
竹屋	206	7
梅	266	8
朱二	404	12
朱四	412	12
朱六	436	12
朱三	508	16 (1)
朱四	511	15 (1)
朱八	699	18
朱木	705	20 (1)

下京区

学校名	児童数	学級数
第浜	85	6 (2)
豊國	123	6 (2)
間徳	126	7 (1)
参格	132	6 (2)
要	132	6
稚松	153	6
崇仁	162	6 (1)
有植	184	6
柳	202	6
西大路	211	6
淨風園	254	8
光徳	322	11
大内	430	12
七条	433	12
朱	486	14 (1)
木	542	15

東なお、この表の外に、グラフ③で示すように、左京、東山区に各1校の少人数校があります。

注(1) 学校名に☆がついているものは、少人数校で、学級数の○の中の数字は、20人未満の学級数を再掲示しています。

(2) 学級数の○の中の数字は特殊学級を再掲示しています。

(3) 用語の説明 小規模校 学級数が6~11学級の学校

少人数校 どの学年も1学級で、20人未満の児童数をもつ学級が1学級以上ある学校

光あつめ

あんなにていねいに教えてもらえて
Yクンはしあわせね。

授業参観のあつた日、

夕食のときにお母さんがYクンに言いました。
1クラス40人をこえていたクラスがいくつもあった
お母さんの小学校時代とくらべたら
たしかに先生の眼が、子供たちにのきとどいています。
でも、Yクンは、
今日お母さんが見てくれた理科の時間が
あまり好きにはなれません。
というのも、3年間ずっと同じクラスで勉強していると、
理科の得意なSクンが発表する意見には
すぐみんなが賛成してしまうからです。
どうしてもSクンに追いつけないような気がしてしまってます。



教室にみる 小規模校の光と影 ①

教育の現場から

少人数だからできる ていねいな指導

Yクンのお母さんの感想にありましたように、少人数のクラスでは、先生の眼がすみずみまでゆきといたいね的な指導など、教育上の利点も多く見られます。しかし、その光と見える部分を、教室の授業を中心にしていくことにしましたその裏に、大きな影を宿してもらっているのです。

しかし、その光と見える部分を、教室の授業を中心にしていくことにしましたその裏に、大きな影を宿してもらっているのです。

多くなる発表機会

1クラス20人足らずという教室では、いつも活発に手を挙げる子供にだけ、発表の機会が多く与えられる、といったことはありません。

子供たちの発表に關係なく、先生が順に名指しで発表の機会を与えてもらいま

十分に活用できる教材 ゆきといた配慮

理科教室などの特別教室の利用や、教具の活用が十分にできるということ

も、小規模校の大きな利点です。

また少人数のクラスでは、先生が子供たちひとりひとりの顔色を見て、健

康状態にゆきといた配慮を示すこと

ができるということになります。

たとえば、ていねいな指導はまだ、自然にそつなってしまう先生の手厚い

ひ護といつこどもあります。

手を挙げて自らを主張するといふ積

極性を次第にくしていく子供たち。

どうしても受け身にまわってしまう子供たちが多いのも小規模校に見られる

特徴のひとつです。

教育の最終目的は、子供たちが自立

する事にあります。子供たちが本来

もつている可能性が開花しないまま

「ひとりだち」してしまわないだろう

積極性や自立心は……

先生と児童が一体となつた
学校ぐるみの
特色ある学習の創造

小規模校では、それぞれの先生が自

分の担任以外の子供に日々の機会

も多く、先生と子供たちが一体となつ

なことはいうまでもありません。

か、という不安、懼心こそが、実は小

規模校の光が宿す大きな影にほかなら

なことはいうまでもありません。

しかし、こうした条件を十分にいか

なければ、子供たちの積極的な参加意識

をますます出すことがぜひとも必要

た、学校ぐるみの特色ある学習の場を

つくりやすい条件がととのつていると

います。

しかし、こうした条件を十分にいか

なければ、子供たちの積極的な参加意識

をますます出すことがぜひとも必要

です。

A校・T先生の話

一年年の人数が20人足らずの私

の学級では、子供たちは入学から

卒業までの約2年間に一度もクラス

替えの経験もなく、同じ顔ぶれで

学校での生活を続けていくわけ

です。

そのうち子供たちも次第に、お

互いの長所、短所や能力の程度を

知り尽くす所になるのです。

そして、いつの間にか意識の中

に「本読みはある人が一番で、こ

の人が一番」。計算なら誰々で、

走りは誰」といったように、各部

門について一番から終番までのラ

ンクがきつめと出来上がってし

ます。もちろん、それぞれ自

分の位置つけもしているのです。

このことは、ともすれば上位の

子供には優先を、下位の子供には

あきらめをさせ、どちらの子供

にも意欲を低めさせる結果となる

ことが多いのです。

このことは、ともすれば上位の

子供には優先を、下位の子供には

あきらめをさせ、どちらの子供

にも意欲を低めさせる結果となる

ことがあります。

このことは、ともすれば上位の

</div

とんだところで、三角ベースの復活だネ。
笑いかけて、お父さんは考え込みました。

Yクンのクラスは18人。

そのうち女の子が10人。

女の子をさそても、2チームをつくるのにぎりぎりで、
一人でも欠けるとかたほうのチームは

8人になってしまいます。

男子だけでは三角ベースがやつとれます。

Yクンのうつたえに、笑いかけて

お父さんはふと

Yクンたちがどんな遊びをしているのだろうかと、

心配になつてきました。



運動会や学芸会に見る 小規模校の光と影(2)

教育の現場から

運動場など、施設や用具の利用という面ではめぐまれています。

Yクンのお父さんは、自分の小学生時代を思い出して、「瞬く間に運動場で伸びびと走りまわっている子供たちの姿を、むしろうらやましい気持で思いうかべたことでしょう。Yクンのお父さんの頃は、「遊び時間」に、運動場の場所の取り合いさえ演じられたほどだからです。

その点、運動場や体育館、プール、運動用具等を十分利用できる小規模校の子供たちはめぐまれているといえるでしょう。

Yクンのお父さんは、「遊び時間」にかけてしまったところです。

たくさん出られる運動会、学芸会など

Yクンのお父さんの頃は、全校児童を紅白に分けて、対抗リレーをブログ

ラムの最後に組むことが多かったものです。各クラスから数人の選手を出しで、このリレー競技を行っていました。しかし、小規模校では、どの種目も金員参加で、子供ひとりあたりの出場回数も多くなります。

学芸会や音楽会、あるいは学習発表会などでも、子供たちの出演が多くなるのは、運動会の場合と同じです。

このことだけを取りあげれば、これも小規模校の有利な点ということができるでしょう。

学校行事への参加意識たとえば「七夕の集い」や「なわとび大会」などのさまざまな全校行事が児童たちひとりひとりが、何らかの役割を分担することで、たしかに参加意識は高まるのですが、準備、出場後片づけと忙しきりの状況では、せつゝくの参加意識も「運動会はほんとうのもの」という感想で終ってしまう心配があります。

運動会の各係は高学年の児童で分担し、係活動に当たらせていましたが、時によつては、出場している児童と係活動をしている児童で、競技を見ている児童がほとんどないという状態になります。

小規模校の運動会には、他にも教育

実施やすいというのも小規模校の利点といつてもいいでしょう。人数が少ないだけまとまりやすく、子供たちのそれぞれが何らかの役割を分担するため、行事へのひとりひとり

運動会は忙しすぎると訴える子供たち

上考しなければならない問題があります。学芸会や音楽会の大きな行事になりますと、それがかえって負担になる場合があります。

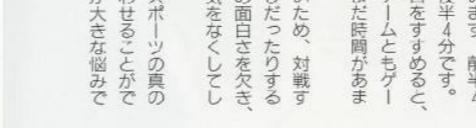
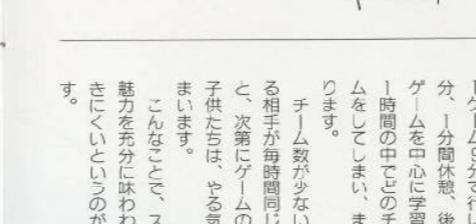
子供たちひとりひとりが、何らかの役割を分担することで、たしかに参加意識は高まるのですが、準備、出場後片づけと忙しきりの状況では、せつゝくの参加意識も「運動会はほんとうのもの」という感想で終ってしまう心配があります。

運動会の各係は高学年の児童で分担し、係活動に当たらせていましたが、時によつては、出場している児童と係活動をしている児童で、競技を見ている児童がほとんどないという状態になります。

小規模校の運動会には、他にも教育

チーム数や対戦相手が少ないエンボル

O校・W先生の話



12

同じ問題が

学芸会や音楽会にも

盛りあがりにくい運動会

そのため、子供たちが忙しくぎるため、ゆきりと応援することができず、全体として盛りあがりにかけてしまつ」とです。

Yクンのお父さんは、「全校児童を紅白に分けて、対抗リレーをブログ

また、少人数のため組体操や駆馬戦、つなぎ、ダンスなど、多人数で行う集団演技ができにくく、こうしたみんなで行う団体種目を通して学ぶ協力の大切さや楽しさを経験することがむつかしい状況です。

1学年1クラスでは、クラス対抗の競技が行はず、応援合戦でも同学年には競争相手がないのですから、団結心が育つ機会にはなりません。

学芸会や音楽会でも、運動会と同様、練習、出演舞台の準備、進行など、どうしても子供たちの負担が過重になります。

そこで、クラスの人数が少ないため、教育目標に即した脚本選びや楽器の構成も不可能だということになれば、問題があります。

脚本を大幅に修正しないと

同じ問題が

音楽会や音楽会にも

盛りあがりにくい音楽会

そのため、子供たちが忙しくぎるため、ゆきりと応援することができず、全体として盛りあがりにかけてしまつ」とです。

Yクンのお父さんは、「全校児童を紅白に分けて、対抗リレーをブログ

また、少人数のため組体操や駆馬戦、つなぎ、ダンスなど、多人数で行う集団演技ができにくく、こうしたみんなで行う団体種目を通して学ぶ協力の大切さや楽しさを経験することがむつかしい状況です。

1学年1クラスでは、クラス対抗の競技が行はず、応援合戦でも同学年には競争相手がないのですから、団結心が育つ機会にはなりません。

学芸会や音楽会でも、運動会と同様、練習、出演舞台の準備、進行など、どうしても子供たちの負担が過重になります。

そこで、クラスの人数が少ないため、教育目標に即した脚本選びや楽器の構成も不可能だということになれば、問題があります。

脚本を大幅に修正しないと

明日は、林間学習でキャンプファイアーに出かけるはずの兄さんに、ちよつと元気がありません。

勉強の手を休めて

「あしたはキャンプファイアで、お兄ちゃんはいいな。」

Yクンが兄さんに話しかけます。

「そなんだけど、クラスの人数が少ないので、キャンプファイアはやめて、部屋の中で

キャンプドルパーティをやることになってしまったんだ。」

そうか、それで兄さんの元気がないんだ。

Yクンはなうとくがいくとどうじに、

「ぼくたちがキャンプに行くときは、

やさり大勢でたき火を囲み、星をみながら

キャンプファイアを楽しみたいなあ。」

と思うのでした。



小規模校の問題点を補う さまざまなか工夫

教育の現場から

強く、たくましい子供を育てようと学校でも、いろいろな工夫がこらされています。

高学年になると、校外活動の一環として、キャンプなどにも出かけます。しかし少人数のため、たき火を囲む子供たちの輪が満足に作れず、楽しみにしていました。キャンドルパーティに変更したというケースもあります。

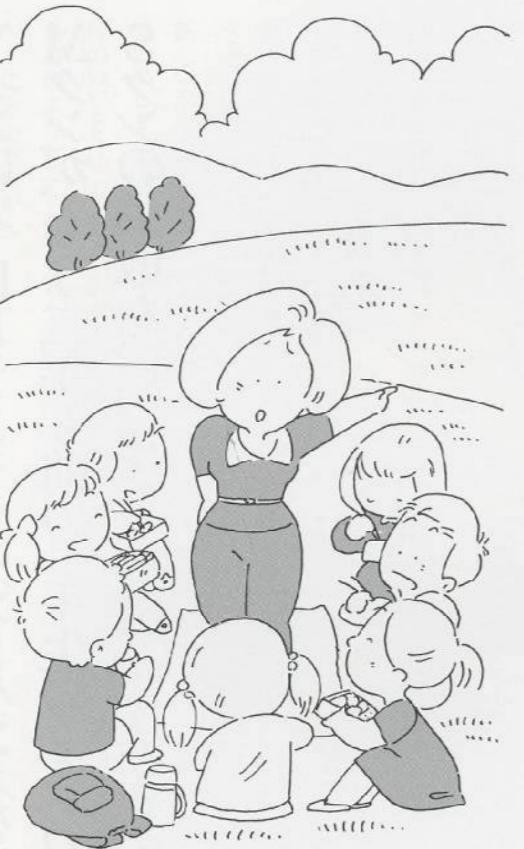
そして、こういうキャンプ地で、人數の多い学校の子供たちと出会った場合、校内では、とくに目立つほど活発な行動を示している子も、急におとなしくなってしまいます。これは小規模校の多くの先生が感じていることです。

どうしてなのでしょう。考え方のことは、小規模校の利点とも思われる、お互いが頗るじみで、校内ではまとまりやすく、仲よく助け合っていること

もつとしても、小規模校のかかえる諸問題を補える部分は限られているのです。

次に、子供たちのいわんの楽しみでもあり、大切な校外活動のひとつでもある遠足について、ある小規模校からのレポートを紹介します。

いろいろな創意や工夫をもつてして補い得ない小規模校にさす影を象徴的に伝える光景です。



広い自然の中できさえ

子供たちの考え方や行動のひろがりは、遠足などで校外に出かけた時自由行動をさせてみるとよくわかります。

少人数のクラスの子供たちは、十人が十人ともといつていいほど、小さくまとまり、かたまって遊んでいるので

だけ、それ以上遠くへ行こうともしません。

少人数のクラスで、つなに先生の三のゆきとどいた生活に馴れてしまつた。奈良へ遠足にいったときのことです。奈良公園で食事をとったあと、見通しいつもわりに範囲を指定して、自由に遊びように向きましたが、子供たちは先生のそばからほんの少し離れた

ままで、それ以上遠くへ行こうともしません。

ままで行動している子供たちからは、大胆な行動力が失われ、行動力を必要とする冒険心や好奇心が奪わがちであります。このことは、教室での学習にも影響を及ぼして、自らすんで学びとするという態度まで育むくなります。

いつも少人数で、こじんまりとまとめて行動している子供たちからは、他の多人数の集団に加わって行動しなければならない場面があります。そんな時小規模校の子供たちは、日頃少人数で行動するため多人数の集団生活に必要な規律がある行動がうまくとれないことがあります。

小学生の間に、集団生活に必要な基礎的な態度を培うことは、大切なことのひとつです。

遠足・社会見学・修学旅行など校外

学習に出かけた場合、見学の場面等で、他の多人数の集団に加わって行動しなければならない場面があります。そんな時小規模校の子供たちは、日頃少人数で行動するため多人数の集団生活に必要な規律がある行動がうまくとれないことがあります。

小学生の間に、集団生活に必要な基礎的な態度を育むことは、大切なことのひとつです。

小さな森に閉じこもる子

F校・E先生の話

今度赴任した学校は、一年一クラスで、同学年教師間の相談ができる、個々の学級なり、教師なりが孤立してしまつ危険性さえ多分にあります。

この様な条件下では、ともすれば教師も子供も、自分の城だけを守つていればいいのだという閉鎖的な考え方におちいつてしまいま

す。私の学校でも、子供たちの日常を見ていると、何かこそそと小さな窓に閉じこもっているような言動が多いようだ、という声が教職員の間に起り、児童会活動や縦割り集団による学校行事等をさらに充実させるなどの対策を真剣にすすめています。

本來の力を出しきれない

G校・K先生の話

高学年になると、スポーツ教室で对外的な試合に出でいく機会もふえます。

そんな時、うちの子供たちはいつも、どうじこも日頃の力が出されません。

同じ、小規模校の多くの先生方とも話してみましたが、やはり、「気が弱くて、どうも気おそれする」、「うだ」ということでした。



近隣校との合同学習

これは、近隣校同士の同学年児童を一堂に集めて、いっしょに学習する」とで、お互いに好ましい刺激を与え、向上心を育てていくという取組です。

球技大会・工作の共同製作、写生会、自然学習・社会見学などの取組を工夫している学校もあります。

日々の学習の中にも

して各班を編成、日常的な清掃活動を行なう。はじめ、七夕の集いやお楽しみ会なども強く、たくましい子供を育てるのにこだわって必要な多数の子供を確保しようといふ工夫です。

これは、近隣校同士の同学年児童を一堂に集めて、いっしょに学習する」とで、お互いに好ましい刺激を与え、向上心を育てていくという取組です。

部会を開き、学校教育目標のもとで、各学年の授業の進み具合を確かめ合つたら、教材研究をしたり、さらに児童の学校生活の様子を情報交換するなどいろいろ打ち合わせをしながら協力しあって進めました。

また、複数の学級がある利点は、行事を持っています。学生会・同窓会・運動会・学芸会等は、その代表的な場であります。行事の企画から準備、練習、当日と一連の仕事は分担され、協力のもとに遂行されます。子供たちも学生のすべての先生の指導を受け、さらに学級の枠をははずして同年齢の子供たちと大集団の中で同じ目的に向かって協力して頑張っています。

また、複数の学級がある利点は、行事を持っています。学生会・同窓会・運動会・学芸会等は、その代表的な場であります。行事の企画から準備、練習、当日と一連の仕事は分担され、協力のもとに遂行されます。子供たちも学生のすべての先生の指導を受け、さらに学級の枠をははずして同年齢の子供たちと大集団の中で同じ目的に向かって協力して頑張っています。

多人数での切磋琢磨や学級を超えた友情の輪が広がっています。

広がる協力の輪

E校・Y先生の話

以前につとめていた学校では、同学年が3クラスあったので、さまざまな面で同学年間の交流がもたれていました。

定期的にまた必要に応じて学年

部会を開き、学校教育目標のもとで、各学年の授業の進み具合を確かめ合つたら、教材研究をしたり、さらに児童の学校生活の様子を情報交換するなどいろいろ打ち合わせをしながら協力しあって進めました。

また、複数の学級がある利点は、行事を持っています。学生会・同窓会・運動会・学芸会等は、その代表的な場であります。行事の企画から準備、練習、当日と一連の仕事は分担され、協力のもとに遂行されます。子供たちも学生のすべての先生の指導を受け、さらに学級の枠をははずして同年齢の子供たちと大集団の中で同じ目的に向かって協力して頑張っています。

また、複数の学級がある利点は、行事を持っています。学生会・同窓会・運動会・学芸会等は、その代表的な場であります。行事の企画から準備、練習、当日と一連の仕事は分担され、協力のもとに遂行されます。子供たちも学生のすべての先生の指導を受け、さらに学級の枠をははずして同年齢の子供たちと大集団の中で同じ目的に向かって協力して頑張っています。

多人数での切磋琢磨や学級を超えた友情の輪が広がっています。

16

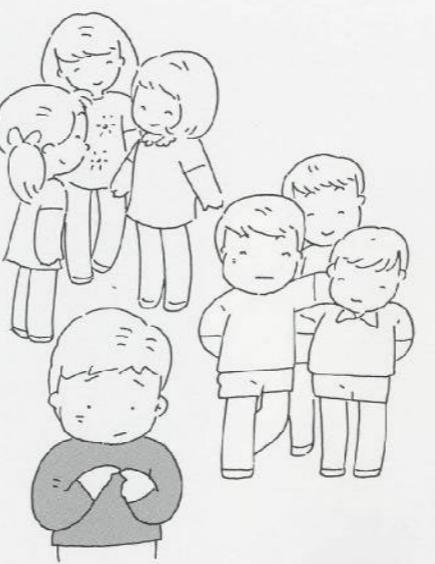
Yクンは、今日とうとうMクンとケンカをしてしまいました。
Mクンが、もう一年も前の一年生のときの
Sクンの失敗を、いつまでもヒヤかすからです。



そして、「今日のケンカのことも、
ずっとわすれないだろう」と思っていた。
親せきのトルクンの学校では、
クラスがえがあつて、そのたびに、
新しい友だちができるといつていたのも
思い出しました。
仲のいいときは、みんながまとまって遊べるのですが
今日のようなことがあると、
トルクンの学校が
ちょっぴりうらやましくなります。

子供たちは、集団とのかかわりから もっとも大切なことを学びます。

クラスのもつ教育力



子供たちは、多人数の集団の中で、性、連帯性を培い、向上心を育て、互に切磋琢磨して伸びていきます。集団は、単なる個人の集まりという

学習はもちろん、多くの友達との協調

性、連帯性を培い、向上心を育て、互に切磋琢磨して伸びていきます。集団は、単なる個人の集まりという

性、連帯性を培い、向上心を育て、互に切磋琢磨して伸びていきます。集団は、単なる個人の集まりとい

うが、さまざまな知識や技術を学習し

たり、個人をこえた機能を持ち、一人

一人の子供に大きな影響を与える場で

あり、子供たちはその場の中でも集団の

一員として社会のルールを学びとりな

がら、さまざまな知識や技術を学習し

たり、個人をこえた機能を持ち、一人

一人の子供に大きな影響を与える場で

ていくのです。

友人の輪が人格の幅を
広げ向上心を大きく
育てます。

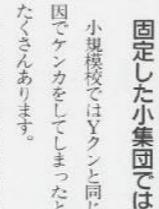
子供の成長にとって、友達が与える
影響の大きさは、誰もが知っています。
そして、子供たちは、クラス
の中にまず友達を求めます。

しかし、小規模校では、そのクラス
の構成が少人数のため、自然と友達が
決まってしまい、求めても多くの友達
と交わることができません。

ひとりの親友を得ることで、潜在的
な能力や個性が思ひぬ伸長をとげる」
とは、よくあることです。小規模校
の子供たちは、こうしたチャンスも
きわめて少ないといわねばなりません。

そればかりか、少人数のクラスでは、
「あの子は走りが速い」「あの子は国語
が不得手」など、固定した評価が子
供同士の間に伝播してしまい、そし
て評価を、また本人が受け入れてしま
うということがあります。

た評価を、また本人が受け入れてしま
うということがあります。



そこには、個性を伸ばし、新しい可
能性が開花するどころか、あきらめと、
そして時には慢心だけがはびこること
に陥りかねません。

小さなクラスにも、自然にいく
つかのグループができるものです。
それもいつか生んだったどこのグ
ループにまとまりてきます。

ひとつの行動する範囲が限られ
ているだけに、いつたん形づく
れたグループは固定され、めった
に変わらないという点です。子供と
いうものは、もっと自由にできる
だけ多くの友達にかかわり合って
大きくなつて欲しいと思うのです。
もうひとつは、どのグループに
も入れない子供が出てきた場合で
す。

多數ならば、他に気の合つ友
達を見つけられる機会もあります
が、少人数クラスではまったく一
人きつちになってしまいます。

クラス悪くすれば低学年時の失敗
が何年間も持ちこされ、話題にされ
たりません。

まだ、ケンカそのものも、あつさり
因でケンカをしてしまったという例が
あります。

小規模校ではYクンと同じく少な原
でケンカをしてしまったという例が
あります。

1年生から6年生まで同じ顔ぶれの1
クラス悪くすれば低学年時の失敗
が何年間も持ちこされ、話題にされ
たりません。

また、ケンカそのものも、あつさり
たけます。

小規模校ではYクンと同じく少な原
でケンカをしてしまったという例が
あります。

1年生から6年生まで同じ顔ぶれの1
クラス悪くすれば低学年時の失敗
が何年間も持ちこされ、話題にされ
たりません。

まだ、ケンカそのものも、あつさり
たけます。

小規模校ではYクンと同じく少な原
でケンカをしてしまったという例が
あります。

1年生から6年生まで同じ顔ぶれの1
クラス悪くすれば低学年時の失敗
が何年間も持ちこされ、話題にされ
たりません。

まだ、ケンカそのものも、あつさり
たけます。

小規模校ではYクンと同じく少な原
でケンカをしてしまったという例が
あります。

まだ、ケンカそのものも、あつさり
たけます。

教育の現場から

気の合つた友達との
出会いが欲しい

H校・R先生の話

小さなクラスにも、自然にいく
つかのグループができるものです。
それもいつか生んだったどこのグ
ループにまとまりてきます。

ひとつの行動する範囲が限られ
ているだけに、いつたん形づく
れたグループは固定され、めった
に変わらないという点です。子供と
いうものは、もっと自由にできる
だけ多くの友達にかかわり合って
大きくなつて欲しいと思うのです。
もうひとつは、どのグループに
も入れない子供が出てきた場合で
す。

多數ならば、他に気の合つ友
達を見つけられる機会もあります
が、少人数クラスではまったく一
人きつちになってしまいます。

クラス悪くすれば低学年時の失敗
が何年間も持ちこされ、話題にされ
たりません。

また、ケンカそのものも、あつさり
たけます。

小規模校ではYクンと同じく少な原
でケンカをしてしまったという例が
あります。

1年生から6年生まで同じ顔ぶれの1
クラス悪くすれば低学年時の失敗
が何年間も持ちこされ、話題にされ
たりません。

まだ、ケンカそのものも、あつさり
たけます。

小規模校ではYクンと同じく少な原
でケンカをしてしまったという例が
あります。

1年生から6年生まで同じ顔ぶれの1
クラス悪くすれば低学年時の失敗
が何年間も持ちこされ、話題にされ
たりません。

まだ、ケンカそのものも、あつさり
たけます。

小規模校ではYクンと同じく少な原
でケンカをしてしまったという例が
あります。

1年生から6年生まで同じ顔ぶれの1
クラス悪くすれば低学年時の失敗
が何年間も持ちこされ、話題にされ
たりません。

まだ、ケンカそのものも、あつさり
たけます。

小規模校ではYクンと同じく少な原
でケンカをしてしまったという例が
あります。

まだ、ケンカそのものも、あつさり
たけます。

ぎおん祭の宵やまの日、トオルクンが Yクンの家へ、遊びにきました。

山鉾を見物にいった帰り

おじいさんがYクンの学校の前で立ちどまり、

「おじいさんもこの学校で勉強したんだよ。」

と話してくれました。

「もうずっと昔の人たちが、みんな一生懸命勉強するようにと、どの県にもまけなくくらい早く学校をつくってくれたんだ。」

とつづけるおじいさんの話を、

ふたりはしんみような顔つきで聞いていました。

そして、郊外へ引っ越したばかりのトオルクンがいました。

「エー、ぼくらの学校はまだ十年くらいらしいよ。

友達も、新しく来た子が多いし、

それでみんな近所のお祭りのこともよく知らないんだ。」



京都の地域社会には、他に類を見ない 伝統と強い絆が息づいています。

小学校と共にありつづける 京都市民の自治意識

明治の初め、京の町では、全国にさきがけて小学校創設への取組がすみられました。自治意識の高い町衆の存在とともに、小学校創設の取組は、番組を母体にすすめられました。地域社会の構成単位であったこの番組は、いまも学区として生きつづけています。

京都の、わけても都心部にある小学校は、もともと地域社会の大切な共有財産として創設されたものです。

当時の町衆が、教育に寄せた期待はそれほどに大きく、また教育についての見識は、それほどに高いものでした。だからこそ、小学校の創設にまつわるエピソードや、小学校への熱い思いが、親から子へ、子から孫へと伝えられてきました。

創設のいきさつをきくればむしろ當

き続けています。

たとえば、自治連合会などの各種団体が主催する地域の防火活動、美術活動、交通安全対策をはじめとして、秋の区民運動会、夏休みの子供たちのために催される行事、敬老の日の催しなど多くのものが数えられます。

京都市民によって守り、支えられてきた小学校の歴史と伝統は、脈々と生きています。子供たちの教育に大きな橋樁をつなぐことは、まさによいこととは、21世紀を担う子供たちの成長に向けた課題を紹介してきました。

都心にある小規模校を、現在の形のままでよいとすることは、21世紀を担う子供たちの成長に向けた課題を紹介してきました。

う子供たちの教育に大きな橋樁をつなぐことは、まさによいことは、21世紀を担う子供たちの成長に向けた課題を紹介してきました。

しかし、その地域社会の明日の担い手が、いま、小規模校に学ぶという教育上の問題に直面しているのも事実です。

子供たちのすぐかな成長のため、小規模校のもちろん小さな問題点を紹介してきました。都心にある小規模校を、現在の形のままでよいとすることは、21世紀を担う子供たちの成長に向けた課題を紹介してきました。

う子供たちの教育に大きな橋樁をつなぐことは、まさによいことは、21世紀を担う子供たちの成長に向けた課題を紹介してきました。

しかし、現状は、社会の大きな変動の中でも、都心部小学校の多くが小規模校によって継承されることにより、すぐれた伝統そのものも、すぐれた人の手によって継承されることにより、立派な伝統となってきたのではないでしょう。

そして何よりも、ぜひ想起していたいことは、京都の、それもとりわけ都心部の小学校が、これほどに長く、地域社会の核として、さまざまなか役割を果たし、輝かしい歴史に彩られた真の理由についてです。

それはYUKINのおじいさんの話にもありましたように、なにをおいても次代を担ってくれる子供たちの、たくましきやかな成長を願い、教育というものを他のいかなる問題にも優先させず、や判断力、情報の選択力を身につけて

伝統は、それを支え、ひきついでいく 人間があつてこそ、守られます。

人間をつくるのは、教育です。中でも小学校での教育は、その後の人間形成に大きな影響をおよぼします。

すぐれた伝統そのものも、すぐれた人の手によって継承されることにより、立派な伝統となってきたのではないでしょう。

そして何よりも、ぜひ想起していたいことは、京都の、それもとり

わけ都心部の小学校が、これほどに長く、地域社会の核として、さまざまなか役割を果たし、輝かしい歴史に彩られた真の理由についてです。

それはYUKINのおじいさんの話にもありましたように、なにをおいても次代を担ってくれる子供たちの、たくましきやかな成長を願い、教育というものを他のいかなる問題にも優先させず、や判断力、情報の選択力を身につけて

躍していかれることが大切であり、そ

21世紀に向かつて……

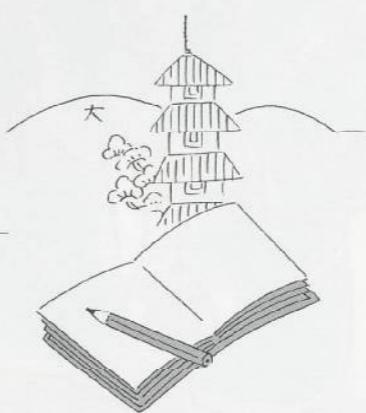
子供たちに豊かな心と たくましさを

子供たちが活躍する21世紀の社会では、今日以上に情報化、国際化、そして高齢化をすむといわれています。

また、交通・通信手段の発達や経済の成長性から多様化へ、社会は文化の交流も地球的な規模に拡大する国際化社会に向かつて、するといふ感覚や自覚と責任感、行動力などこのたましさが大切です。

このような社会では、確かな思考力、大きな変化を遂げて、生活文化もますます物の豊かさから心の豊かさへ、均質化をすむといわれています。

今後もますむ高齢化社会では、いろいろな経験をもつ人々が生き生きと活躍していかれることが大切であり、そ



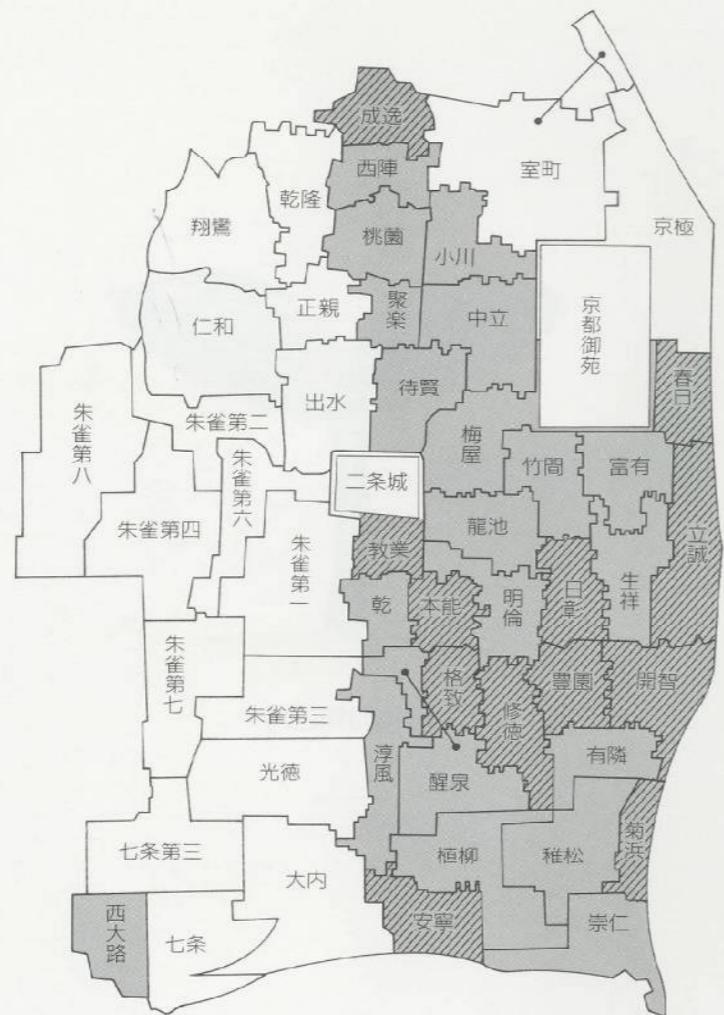
「やっぱり、PTAなどでも
いちどこの問題を取りあげてもらおうか。」と、
スヌムクンのお父さんがいました。

今日、会社からの帰り、Yクンのお父さんが
偶然スヌムクンのお父さんと出会ったときのことです。
Yクンとスヌムクンは同じクラスです。
そして、スヌムクンのお父さんも、
やはり三角ベースのことを話していたそうです。
「どこの家庭でも、少なすぎるクラスで学ぶ
子供たちの授業が、気になるんだね。」と、お父さん。
「ほんと、いちどPTAでとりあげて、
みんなで考えるのがいいかも知れませんね。」
お母さんも、真剣な顔で答えます。



昭和62年度
都心部小規模校の分布状況

■ 小規模校 32校
■ 全学年1学級で
150人未満の学校 12校



学校は、今……

昭和63年2月

編集・発行 京都市教育委員会
京都市小学校長会

小規模校問題について、 皆さま方のご意見、ご提言をお寄せください。

本冊子は、小規模校問題を市民、保護者の皆さまとともに、考えていく目的で作成したものです。

ご精読のうえ、皆さまのご意見、ご提言を賜わりますよう、また、今後とも私たちのこの問題への取組に、ご理解、ご協力くださいますようお願いいたします。

● なお、直接ご意見をお寄せいただく場合は、別添の用紙をご使用ください。

● ご意見の送付先は左記のとおりです。

〒600 京都市立永松記念教育センター研究課
京都市下京区河原町通仏光寺西入 TEL 075-371-0000

これからのお問い合わせについて、
ご家庭で、自治連、PTAなどで、
ぜひとも教育上の見地から真剣なご討議、ご検討をお願いします。
教育委員会では、皆さまとともに、
21世紀を担う子供たちのよりよい教育環境づくりのために、
全力をあげて取り組んでいきます。